

トラック

トラック機能のご紹介

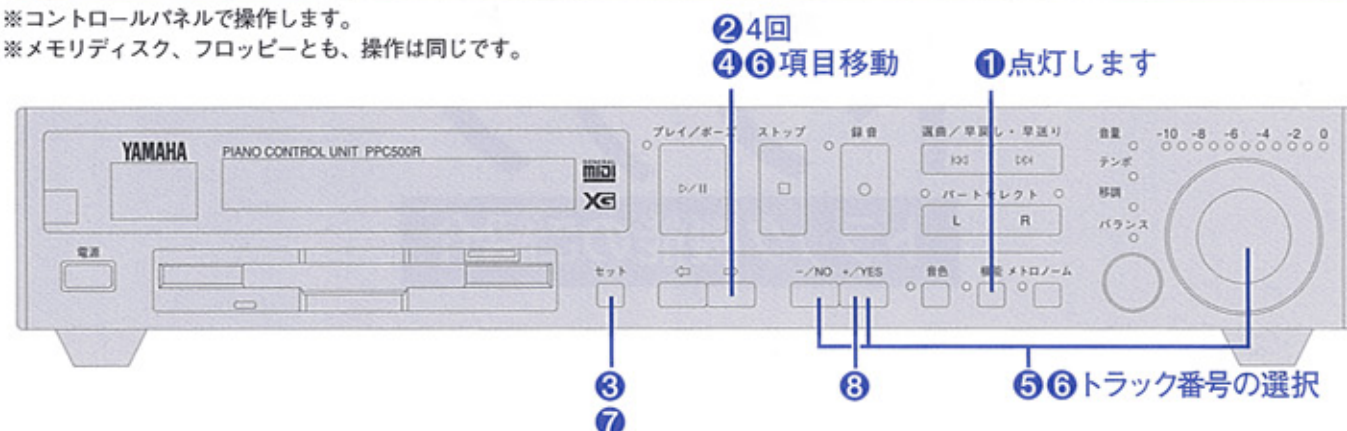
録音済みのトラックはトラック機能を使って編集することができます。複数のトラックを一つのパートにまとめたり、トラック全体を移調したり、不要なトラックを消去したりして、曲を完成させることが可能です。なお、トラック機能はコントロールパネルで操作します。

2つのトラックを1つにまとめる	トラックミックス	P66
トラックを別のトラックに移す	トラック移動	P68
トラックの複製を作る	トラックコピー	P70
不要なトラックを消す	トラック消去	P72
トラック全体を移調する	トラック移調	P74

トラックミックス 2つのトラックを1つにまとめる

※コントロールパネルで操作します。

※メモリディスク、フロッピーとも、操作は同じです。



曲を選び、停止中に操作します

1 機能ボタンを押す

▶ ディスク *MIDI Setup →
*M-Tune *サイレント

3 「▶トラック」と表示されていることを確認し、セットボタンを押す

▶ [ミックス] > 01 → ##
●○○○ ○○○○ □○○○ (セット)

2 カーソルボタン⇐⇒を4回押して次画面を呼出す

←▶トラック *リセット
(←, →, セット)

4 カーソルボタン⇐⇒を押して項目を移動し、「▶01」と表示させる

[ミックス] ▶ 01 → ##
●○○○ ○○○○ □○○○ (セット)



- 2つのトラックのデータをミックスして、1つのトラック(2番目に選択したトラック)の中にまとめる機能です。ミックス後、最初に選択したトラックのデータは消去されます。
- 1つ目のトラックの音符データ(ノート・オン/オフ)とペダルデータ(コントロールチェンジ)が2つ目のトラックに重ね合わされます。

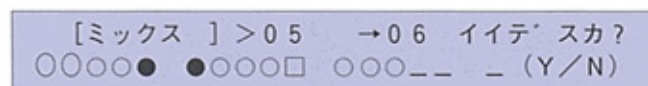
5 まず1つ目のトラックを、ダイヤル、 - / NO、+ / YESボタンで選ぶ



6 カーソルボタン⇐⇒を押して項目を移動し、ダイヤル、 - / NO、+ / YESボタンで2つ目のトラックを選ぶ



7 セットボタンを押す



8 トラックミックスを行う場合は+ / YESボタンを押す (ミックスしない場合は- / NOボタンでキャンセル) 表示が変わったら、トラックミックス終了



※フロッピーの場合は「ディスクヨトリダサナイデ!」が2行目に加わります。



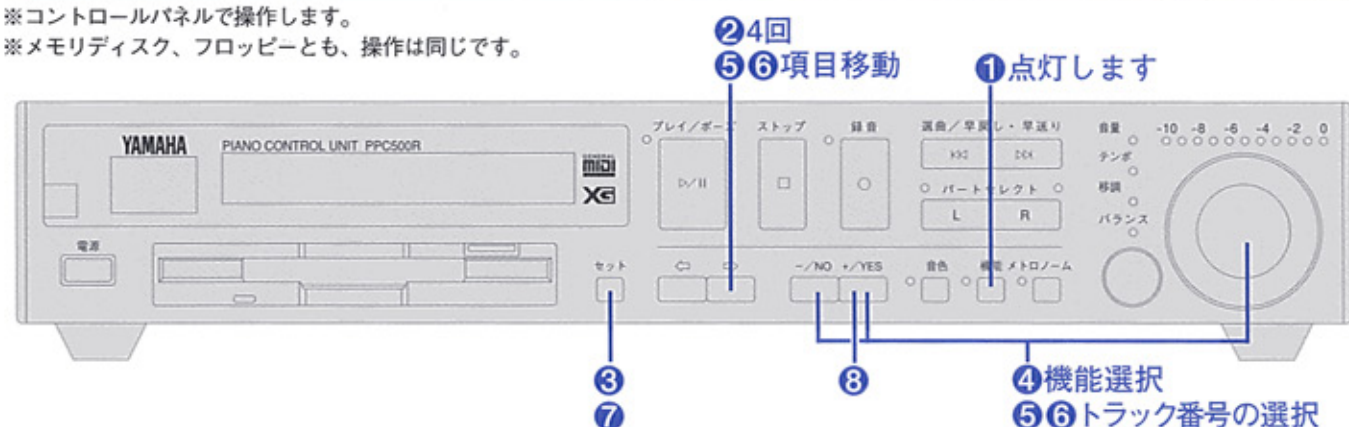
- フロッピー内の曲のトラック編集には、絶対にフロッピーを取り出したり、電源を切ったりしないでください。
- プロテクトがオンになっているフロッピーはトラックミックスできません(xv参照)。
- E-SEQフォーマット曲でハーフペダルデータが記録されている場合、トラック3は選択できません。
- E-SEQフォーマット曲でピアノパートをそれ以外のパート(アンサンブルパート)へミックスしたり、アンサンブルパートをピアノパートへミックスした場合、ハーフペダルデータ(トラック3)は消去されます(ペダルのON/OFFデータは残ります)。

トラック移動

トラック内のデータを別のトラックに移す

※コントロールパネルで操作します。

※メモリディスク、フロッピーとも、操作は同じです。



曲を選び、停止中に操作します

1 機能ボタンを押す

▶ ディスク *MIDI Setup →
*M-Tune *サイレント

2 カーソルボタン⇔を4回押して次画面を呼出す

←▶トラック *リセット
(←, →, セット)

3 「▶トラック」と表示されていることを確認し、セットボタンを押す

▶ [ミックス] > 01 → ##
●○○○ ○○○□ ○○○_ _ (セット)

4 ダイヤル、-/NO、+/YESボタンで「▶[イトウ]」と表示させる

▶ [イトウ] > 01 → ##
●○○○ ○○○□ ○○○_ _ (セット)



●トラック内のデータを、別のトラックに移す機能です。移動後、元のトラックにあったデータと、移動先のトラックに入っていたデータは消去されます。

5 カーソルボタン⇐⇒で項目を移動し、ダイヤル、 - / NO、+ / YESボタンで移動するトラックを選ぶ



6 カーソルボタン⇐⇒で項目を移動し、ダイヤル、 - / NO、+ / YESボタンで移動先のトラックを選ぶ



7 セットボタンを押す



8 トラック移動を行う場合は+ / YESボタンを押す (移動しない場合は- / NOボタンでキャンセル) 表示が変わったら、トラック移動終了



※フロッピーの場合は「ディスクラトリダサナイデ!」が2行目に加
わります。

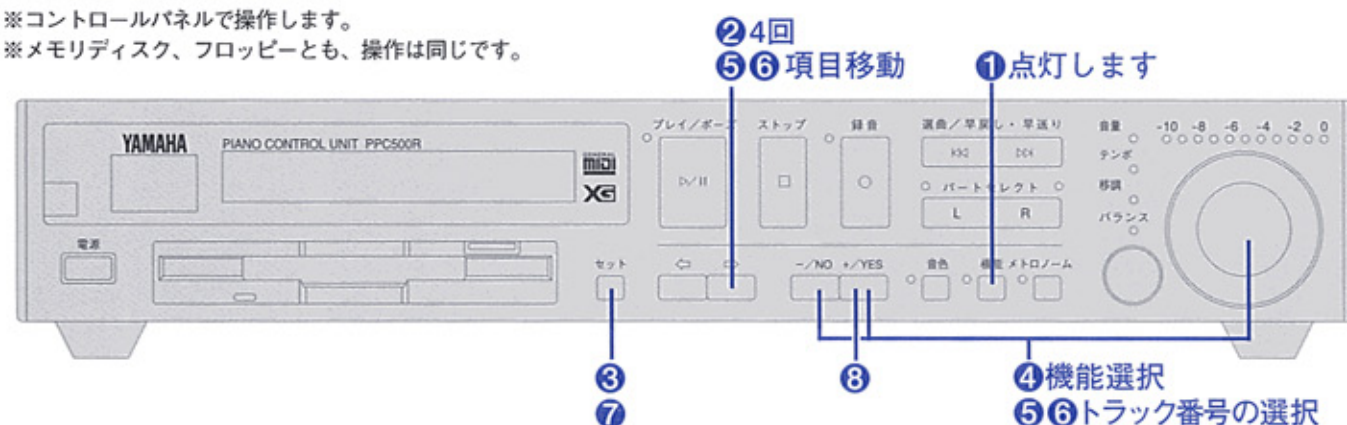


- フロッピー内の曲のトラック編集には、絶対にフロッピーを取り出したり、電源を切ったりしないでください。
- プロテクトがオンになっているフロッピーはトラック移動できません(xv参照)。
- 音符データ(ノート・オン/オフ)、ペダルデータ(コントロールチェンジ)の他、音色番号、音量のデータも移動します。
- E-SEQフォーマット曲でハーフペダルデータが記録されている場合、トラック3は選択できません。
- E-SEQフォーマット曲でピアノパートをそれ以外のパート(アンサンブルパート)へ移動したり、アンサンブルパートをピアノパートへ移動した場合、ハーフペダルデータ(トラック3)は消去されます(ペダルのON/OFFデータは残ります)。
- トラック10に他のパートをトラック移動すると音色設定も移動され、サイレント時にメトロノーム音とその音色で発音します。

トラックコピー トラックのデータを別のトラックにコピーする

※コントロールパネルで操作します。

※メモリディスク、フロッピーとも、操作は同じです。



曲を選び、停止中に操作します

1 機能ボタンを押す

▶ ティスク *MIDI Setup →
*M-Tune *サイレント

3 「▶トラック」と表示されていることを確認し、セットボタンを押す

▶ [ミックス] > 01 → ##
●○○○○ ○○○○□ ○○○— — (セット)

2 カーソルボタン⇔を4回押して次画面を呼出す

←▶トラック *リセット
(←, →, セット)

4 ダイヤル、-/NO、+/YESボタンで「▶[コピー]」と表示させる

▶ [コピー] > 01 → ##
●○○○○ ○○○○□ ○○○— — (セット)

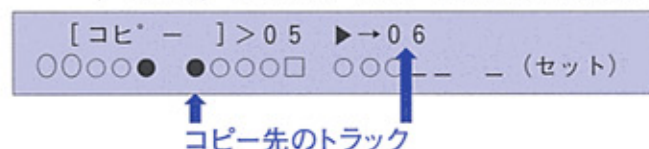


- トラック内のデータをコピーして、その曲の中に同じ演奏内容のトラックをもう1つ作る機能です。
- コピー先にデータが入っていた場合、そのデータは消去されます。コピー元のトラックのデータはそのまま残ります。

5 カーソルボタン⇐⇒で項目を移動し、ダイヤル、 - / NO、+ / YESボタンでコピーするトラックを選ぶ



6 カーソルボタン⇐⇒で項目を移動し、ダイヤル、 - / NO、+ / YESボタンでコピー先のトラックを選ぶ



7 セットボタンを押す



8 トラックコピーを行う場合は+ / YESボタンを押す (コピーしない場合は- / NOボタンでキャンセル) 表示が変わったら、トラックコピー終了



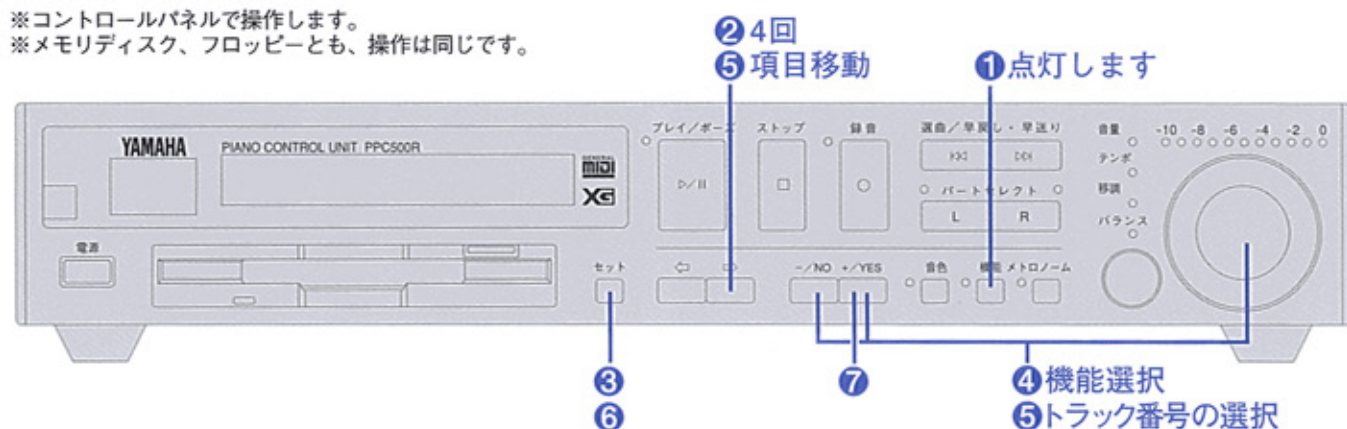
※フロッピーの場合は「ディスクラトリダサナイデ!」が2行目に加
わります。



- フロッピー内の曲のトラック編集には、絶対にフロッピーを取り出したり、電源を切ったりしないでください。
- プロテクトがオンになっているフロッピーはトラック移動できません(xv参照)。
- 音符データ(ノート・オン/オフ)、ペダルデータ(コントロールチェンジ)の他、音色番号、音量のデータもコピーされます。
- E-SEQフォーマット曲でハーフペダルデータが記録されている場合、トラック3は選択できません。
- E-SEQフォーマット曲でピアノ以外のパート(アンサンブルパート)をピアノパートへコピーした場合、ハーフペダルデータ(トラック3)は消去されます(ペダルのON/OFFデータは残ります)。
- トラック10に他のパートをトラックコピーすると音色設定もコピーされ、サイレント時にメトロノーム音がその音色で発音します。

トラック消去 要らないトラックを消す

※コントロールパネルで操作します。
※メモリディスク、フロッピーとも、操作は同じです。



曲を選び、停止中に操作します

1 機能ボタンを押す

▶ ティスク *MIDI Setup →
*M-Tune *サイレント

2 カーソルボタン⇄を4回押して次画面を呼出す

←▶トラック *リセット
(←, →, セット)

3 「▶トラック」と表示されていることを確認し、セットボタンを押す

▶ [ミックス] > 01 → ##
●○○○○ ○○○○□ ○○○— — (セット)



●要らないトラックを消す機能です。



●フロッピー内の曲のトラック編集には、絶対にフロッピーを取り出したり、電源を切ったりしないでください。
●プロテクトがオンになっているフロッピーはトラック消去できません(xv参照)。

4 ダイヤル、－/NO、＋/YESボタンで「▶ [ショウキヨ]」と表示させる

▶ [ショウキヨ] > 0 1
●○○○○ ○○○○□ ○○○_ _ (セット)

5 カーソルボタン⇐⇒で項目を移動し、ダイヤル、－/NO、＋/YESボタンで消去するトラックを選ぶ

[ショウキヨ] ▶ 0 5
○○○○● ○○○○□ ○○○_ _ (セット)

↑
選択されたトラック

6 セットボタンを押す

[ショウキヨ] > 0 5 イイテ スカ?
○○○○● ○○○○□ ○○○_ _ (Y/N)

7 トラック消去を行う場合は＋/YESボタンを押す (消去しない場合は－/NOボタンでキャンセル) 表示が変わったら、トラック消去終了

シ ッコウチュウ

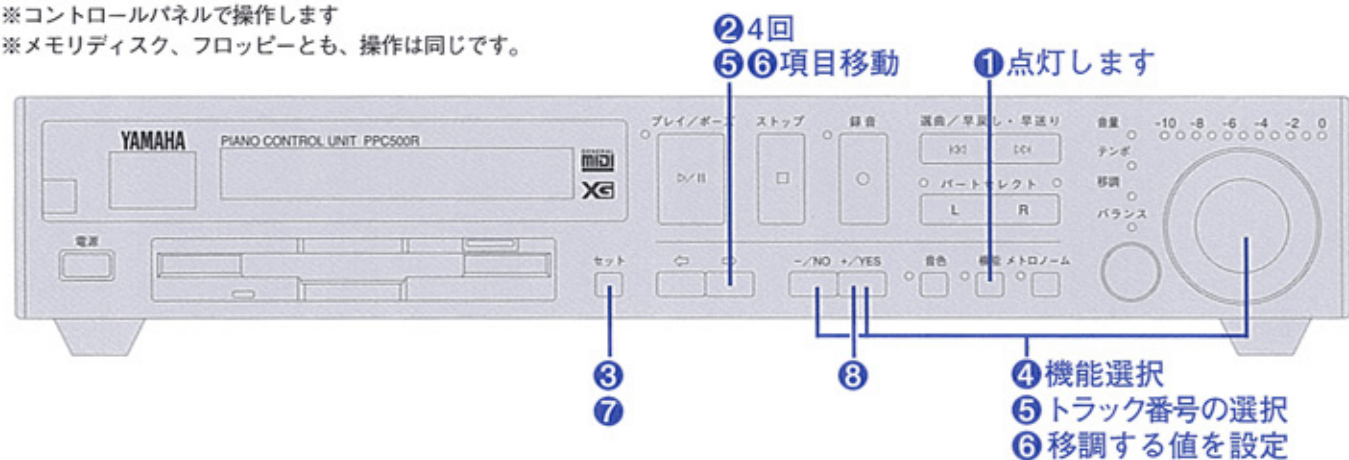
※フロッピーの場合は「ディスクトリダサナイデ!」が2行目に加わります。

トラック移調

トラックに入った演奏を移調する

※コントロールパネルで操作します

※メモリディスク、フロッピーとも、操作は同じです。



曲を選び、停止中に操作します

1 機能ボタンを押す

▶ ディスク *MIDI Setup →
*M-Tune *サイレント

3 「▶トラック」と表示されていることを確認し、セットボタンを押す

▶ [ミックス] > 01 → ##
●○○○ ○○○○ □○○○ — (セット)

2 カーソルボタン⇄を4回押して次画面を呼出す

←▶トラック *リセット
(←, →, セット)

4 ダイヤル、-/NO、+/YESボタンで「▶[イチョウ]」と表示させる

▶ [イチョウ] > 01 00
●○○○ ○○○○ □○○○ — (セット)



●トラック内のデータを移調する機能です。

●トラック移調の設定範囲は、-60～+60で、1キー(半音)単位で調節できます(例えば+12で1オクターブ上がります)。

●トラック番号に「ALL」を指定すると全トラック一斉に移調することができます(リズムトラックは移調されません)。



●フロッピー内の曲の編集・保存中には、絶対にフロッピーを取り出したり、電源を切ったりしないでください。

●プロテクトがオンになっているフロッピーはトラック移調できません。

●パソコンなどを使ってシステムエクスクルーシブ等の特殊な方法でリズムトラックを指定した場合、リズムトラックも移調される場合があります。

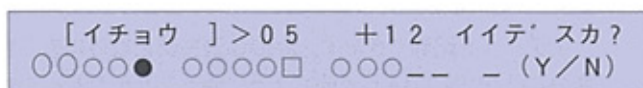
5 カーソルボタン⇐⇒で項目を移動し、ダイヤル、
- / NO、+ / YESボタンで移調するトラックを選ぶ



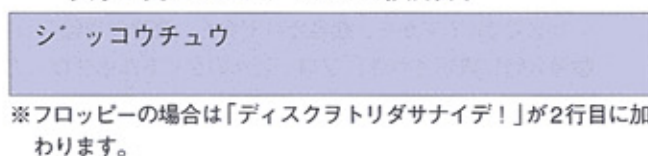
6 カーソルボタン⇐⇒で項目を移動し、ダイヤル、
- / NO、+ / YESボタンで移調する値を設定する



7 セットボタンを押す



8 トラック移調を行う場合は+ / YESボタンを押す
(移調しない場合は- / NOボタンでキャンセル)
表示が変わったら、トラック移調終了



ディスクの使いこなし

メモリディスクとフロッピー

- サイレントアンサンブルピアノでは、2種類の「ディスク」が使えます。メモリディスクとフロッピーディスクです(この取扱説明書では、フロッピーディスクは「フロッピー」と表記)。ディスプレイに「ディスク」と出る場合は、両方を指しています。
- <メモリディスク>は実際には本体の中の半導体で、フロッピーディスクのように取り出すことはできません(もちろん電源をオフしても曲は覚えています)。
- ふだんの録音にはこのメモリディスクをお使いになると便利です。保存や選曲などもスピーディです。まずメモリディスクに録音しておき、たまってきたら曲コピーでテーマごとにフロッピーに整理・保存し(メモリディスク内の不要な曲は曲消去します)、必要に応じてフロッピー内の曲順を曲並び替えて入れ換えます。
- 逆に、複数のフロッピーや市販ソフトからメモリディスクに曲をコピーし、聴きたい曲だけを好きな順番に並べたオリジナルプログラムを作成しておく使い方もあります。フロッピー入れ換えの手間が省けますし、うっかり別の曲を再生してしまうこともありませんから、パーティーやイベントがスマートに行えます(市販ソフトからメモリディスクへのコピーは可能ですが、メモリディスクからフロッピーへのコピーはできません)。

フロッピーディスクのご注意

- 本製品に使う3.5インチ・フロッピーディスクには、容量の違いで、2HDと2DDの2種類があります。2HDは2DDの約2倍のデータを記録できます。2HDは消去防止以外にもう1つ穴があいており、2DDと区別できます。
- 2HDと2DDのいずれも同じように使うことができますが、いくつか注意が必要です。旧機種のサイレントアンサンブルピアノやピアノプレーヤーで使われるのは2DDのみです。これらの機種とフロッピーのやりとりをする場合は、2DDを使います(2HDと2DDの間で曲コピーは可能です)。

タイトルを付けましょう

- 録音を行うと仮の名前がセットされますが、内容がよく分かるようタイトル入力で題名を付けておきましょう。最大32文字までOKですから、曲名だけでなく、演奏者や録音日なども書き込めます。もちろん、後から修正することもできます。
- 挿入時に表示される、フロッピーのタイトルもぜひ入力しましょう。プレゼントのフロッピーにメッセージを入れておくのもアイデアですね。
- 大切な演奏の記録を保管したフロッピーは、ディスクコピー時などにうっかり内容を消してしまわないよう、消去防止をオンにしておきます。
- フロッピーのラベルには、ディスクタイプも記入しておきましょう。

[*参照ページ]

- ◆タイトル入力……P46
- ◆曲コピー……P80
- ◆曲並び替え……P82
- ◆ディスクコピー……P84
- ◆フォーマットについて……xvii、P40、P92
- ◆メモリディスクとフロッピー……xvi

※フロッピーディスクの取り扱いは、「フロッピーディスクについて」(xiv)をよくお読みください。

ディスク

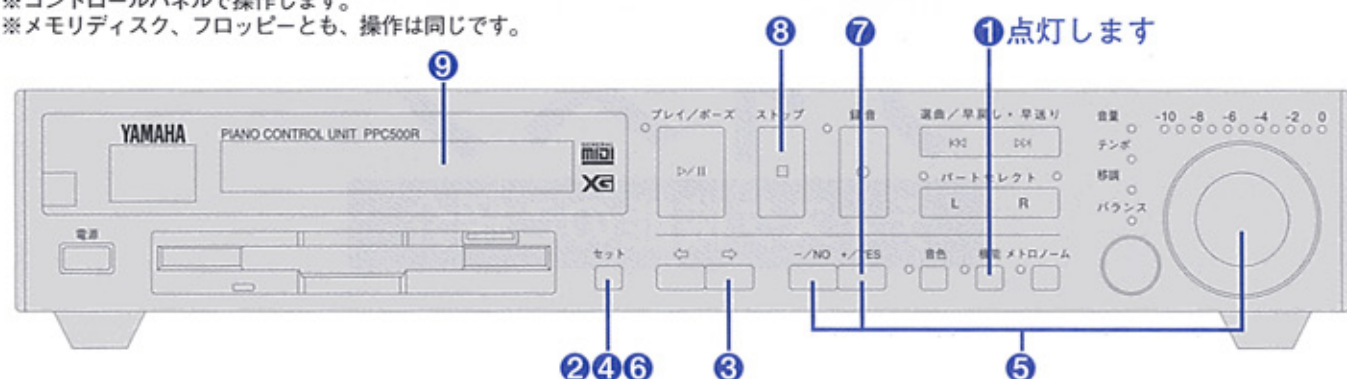
ディスク機能のご紹介

本章では、曲単位で消去やコピー、並び替えなどを行う機能と、フロッピー単位でコピー、タイプ変換を行う機能をご紹介します。

要らない曲を消したい	曲消去	P78
曲の複製をつくりたい	曲コピー	P80
保存用のフロッピーをつくりたい	曲コピー	P80
メモリディスクの曲をフロッピーに移したい	曲コピー	P80
曲の順番を並べ替えたい	曲並び替え	P82
曲のフォーマットを変更したい	曲フォーマット変換	P86
メトロノーム録音した曲を 時間録音曲に変換する	カウンター変更	P88
フロッピー全体をコピーしたい	ディスクコピー	P84
フロッピー全体のタイプを変更したい	ディスクタイプ変換	P90
フロッピー全体を消去したい	フォーマットのしかた	P40

曲消去 要らない1曲を消す

※コントロールパネルで操作します。
※メモリディスク、フロッピーとも、操作は同じです。



停止中に操作します

1 機能ボタンを押す

▶ ディスク *MIDI Setup →
*M-Tune *サイレント

2 「▶ディスク」と表示されていることを確認して セットボタンを押す

▶ フォーマット *キョク ショウキョ
*キョク コビター *キョク ナラビカエ →

3 カーソルボタン⇐を押して「▶キョク ショウキョ」と表示させる

*フォーマット ▶キョク ショウキョ
*キョク コビター *キョク ナラビカエ →

4 セットボタンを押す

[キョク ショウキョ] (一, +)
▶ 01 ○○○○ (セット)
↑ ↑
曲番号 曲名(曲名がない場合はファイル名)

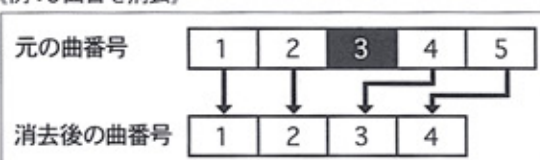
5 -/NO、+/YESボタン、ダイヤルで消去する曲を選ぶ

[キョク ショウキョ] (一, +)
▶ 03 ○○○○ (セット)



●メモリディスクやフロッピーに録音された要らない曲を、1曲単位で消す機能です。消去するとその曲番号や曲名も、演奏と一緒に消去されます。

〈例：3曲目を消去〉



※4曲目以降の曲番号は繰り上がって「元の曲番号-1」曲目となります。

6 セットボタンを押す

[キョク ショウキョ] イイテ スカ?
03 ○○○○ (Y/N)

7 +/YESボタンを押すと曲消去開始

シッ コウチュウ

※-/NOボタンを押せば、曲消去をキャンセルして④の表示に戻ります。

※フロッピー内の曲を消去中は2行目に「ディスクラトリダサナイデ!」が表示されます。

8 次の表示になったら、ストップボタンを押す

シュウリョウシマシタ
ナニカ ホタンヲ オシテクタ サイ

9 曲名表示に変わったら、曲消去終了

○○○○○ (00:00) →
S O X G



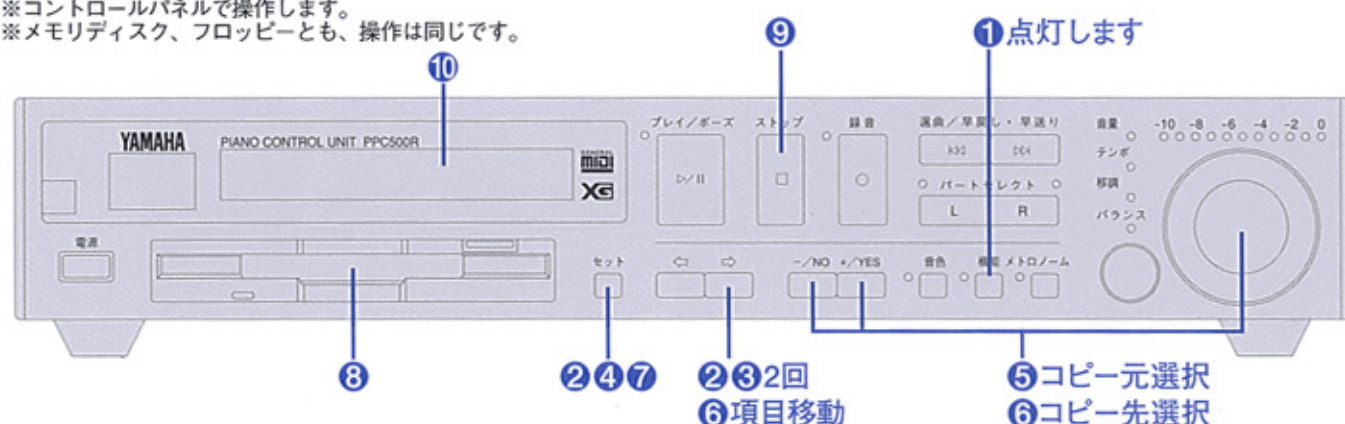
- フロッピーの場合は、④の表示までに入れておきます。
- ⑥の表示で-/NOボタンを押せば、曲消去をキャンセルして④の表示に戻ります。
- 大事な演奏を誤って消さないためには、「タイトル入力」(P46)したり、フロッピーのプロテクトをオンにしておくことをおすすめします(xv「フロッピーディスクについて」参照)。
- ディスク内の全曲を消去したい時には、ディスクフォーマット(P40「フォーマットのしかた」)が便利です。



- 曲消去を始めると(⑦で+/YESボタンを押すと)、途中で止めることはできません。その間にフロッピーを取り出したり電源を切ったりすると、故障の原因になることがありますので、絶対にしないでください。
- プロテクトがオンになっているフロッピーは曲消去できません(xv参照)。
- ディスク機能を途中で終了したい時は、もう1度機能ボタン(またはストップボタン)を押して消灯させます。
- 「ピアノソフト」「ピアノソフトプラス」等の市販ディスクを曲消去することはできません。
- 複数の曲を一度に消去することはできません。

曲コピー 曲の複製をつくる

※コントロールパネルで操作します。
※メモリディスク、フロッピーとも、操作は同じです。



停止中に操作します

1 機能ボタンを押す

▶ ディスク *MIDI Setup →
*M-Tune *サイレント

2 「▶ ディスク」と表示されていることを確認して セットボタンを押す

▶ フォーマット *キョク ショウキョ
*キョク コピー *キョク ナラビ カエ →

3 カーソルボタン⇐⇒を2回押して「▶ キョク コピー」と表示させる

*フォーマット *キョク ショウキョ
▶ キョク コピー *キョク ナラビ カエ →

4 セットボタンを押す

コピー先表示

[キョク コピー] → オナジ ディスク (セット)
▶ 01 ○○○○
曲番号 曲名(曲名がない場合はファイル名)

5 -/NO、+/YESボタン、ダイヤルで コピーする曲を選ぶ

[キョク コピー] → オナジ ディスク (セット)
▶ 03 ○○○○



- 1曲単位でコピーする機能です。メモリディスクや1枚のフロッピーの中でも、メモリディスクとフロッピーの間でも、フロッピーと別のフロッピーの間でもコピーできます。
- コピーされた曲は、最後の曲番号になります。



- フロッピーをコピー元にする場合は、④の表示までに入れておきます。挿入されていない場合は、メモリディスクがコピー元になります。
- ⑦で、「オナジディスク」「ホカノディスク」「メモリディスク」の3種類からコピー先を選びます(コピー元がメモリディスクの場合「オナジディスク」は表示されません)。フロッピーからメモリディスクへコピーする場合は「ホカノディスク」ではなく、「メモリディスク」を選びます。
- フロッピーから他のフロッピーへコピーする時には、⑧でコピーを開始した後に、次の表示が出ます。ディスプレイの指示に従って、コピー先のフロッピーとコピー元のフロッピーを入れ換えてください(入れ換えを促す音がします)。

コピー元 ディスク イレテクター サイ
03 → ホカノディスク

6 カーソルボタン⇐を押して「▶ホカノディスク」と表示させ、コピー先を- / NO、+ / YESボタン、ダイヤルで選ぶ

[キョク コピー -] ▶ホカノ ディスク
> 03 ○○○○ (セット)

コピー先表示	コピー元	コピー先
オナジディスク	フロッピー	→ フロッピー
ホカノディスク	フロッピー	→ フロッピー
	メモリディスク	→ フロッピー
メモリディスク	フロッピー	→ メモリディスク
	メモリディスク	→ メモリディスク

7 セットボタンを押す

《ホカノディスクの場合》

コピー - サキノ ディスク イレテクタ サイ
03 →ホカノ ディスク

※コピー先に「メモリディスク」を選んだ場合、セットボタンを押せば、曲コピーが開始されます。

※フロッピーから別のフロッピーにコピーする場合は、入れ換えを促す音がします。

8 コピー先のフロッピーを入れると曲コピー開始

70 シッコウチュウ ■■■■■
ディスク ヲ トリタ サナイテ !

※曲番号表示部とディスプレイにコピー残量が表示されます。図では、残量が70%。「00」(ディスプレイは全て■)でコピー終了。

※メモリディスク内でコピーを行う場合は、2行目は表示されません。

9 次の表示になったら、ストップボタンを押す

シュウリョウシマシタ
ナニカ ホタンヲ オシテクタ サイ

10 曲名表示に変わったら、曲コピー終了

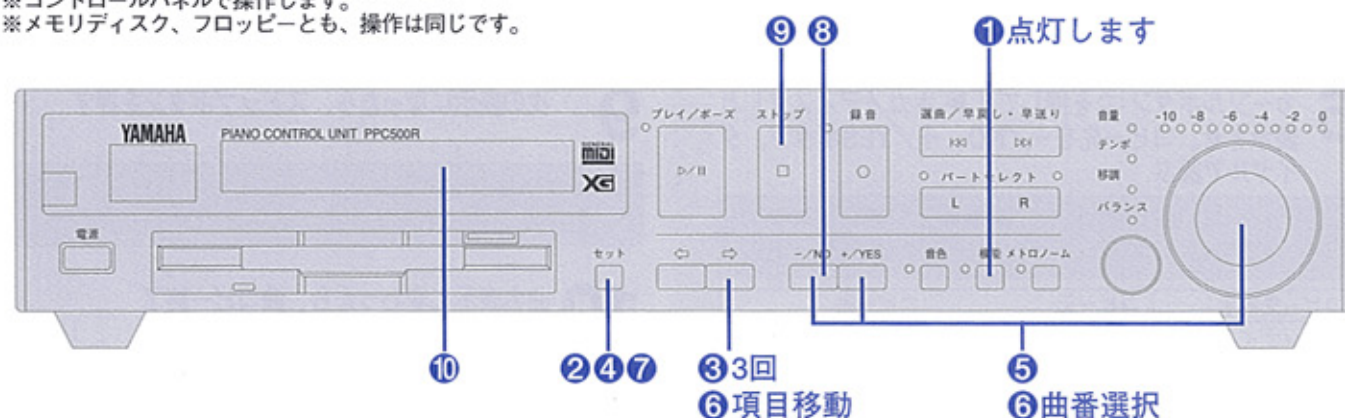
○○○○○ (00:00) →
S O X G



- 曲コピー開始中にフロッピーを取り出したり電源を切ったりすると、故障の原因になることがありますので、絶対にしないでください。
- プロテクトがオンになっているフロッピーはコピー先に指定できません(xv参照)。
- ディスク機能を途中で終了したい時は、もう1度機能ボタン(またはストップボタン)を押して消灯させます。
- 「ピアノソフト」「ピアノソフトプラス」等の市販ソフトからメモリディスクへの曲コピーは可能です。市販ソフトからフロッピーへの曲コピーはできません。
- E-SEQタイプのディスクにE-SEQフォーマット以外の曲はコピーできません。

曲並び替え 録音した曲を好きな曲順に並び替える

※コントロールパネルで操作します。
※メモリディスク、フロッピーとも、操作は同じです。



停止中に操作します

1 機能ボタンを押す

▶ ディスク *MIDI Setup →
*M-Tune *サイレント

2 「▶ ディスク」と表示されていることを確認してセットボタンを押す

▶ フォーマット *キョク ショウキョ
*キョク コビ一 *キョク ナラビ一 カエ →

3 カーソルボタン⇄を3回押して「▶ キョク ナラビカエ」と表示させる

*フォーマット *キョク ショウキョ
*キョク コビ一 ▶キョク ナラビ一 カエ →

4 セットボタンを押す

[キョク ナラビ一 カエ] (一, +)
▶ 01ヲ → 01ハ一ンメニ (←, →, セット)

曲番号

5 一/NO、十/YESボタン、ダイヤルで何曲目を変更するかを選ぶ

[キョク ナラビ一 カエ] (一, +)
▶ 02ヲ → 01ハ一ンメニ (←, →, セット)



●メモリディスクやフロッピーの中の曲順を、好きな順番に並び替える機能です。



●フロッピー内の曲順を並び替える場合は、④の表示までに入れておきます。挿入されていない場合は、メモリディスク内の曲順を並び替えます。

●「[現在○番の曲を変更後何番にするか]」を1曲ずつ指定していきます。
例えば、3番の「C」を1番にして並び替えを続行し、5番の「E」を4番にして終了させると、次のように並び替わります。

曲番号	1	2	3	4	5
並び替え前	A	B	C	D	E
並び替え後	C	A	B	E	D

- 6 カーソルボタン⇐を押してカーソルを右に移し、変更後の曲番を、- / NO、+ / YESボタン、ダイヤルで選ぶ

[キョク ナラビ カエ] (一、十)
> 02ヲ ▶ 05ハ'ンメニ (←、→、セット)

- 7 セットボタンを押すと1曲分の設定が終わり、次の画面になる

点減

ナラビ カエヲ ツツ ケマスカ？
02ヲ ▶ 05 (YES, NO)

※並び替えを続けるなら、+ / YESボタンを押すと④に戻るので、⑤～⑦を繰り返して、1曲ずつ変更します。

- 8 並び替えの設定を終了するには、⑨の質問に対して- / NOボタンを押すと、並び替えを開始

シ' ッコウチュウ

※フロッピーの場合は「ディスクトリダサナイデ！」が2行目に加わります。

- 9 次の表示になったら、ストップボタンを押す

シュウリョウシマシタ
ナニカ ホ' タンヲ オシテクタ' サイ

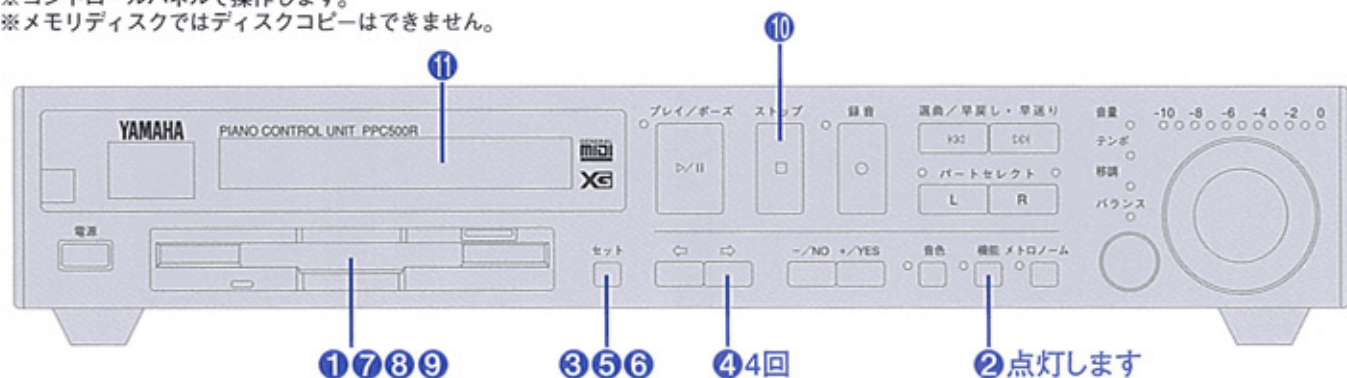
- 10 曲名表示が変わったら、曲並び替え終了



- 曲並び替え実行中にフロッピーを取り出したり電源を切ったりすると、故障の原因になることがありますので、絶対にしないでください。
- プロテクトがオンになったフロッピー(xv参照)や「ピアノソフト」「ピアノソフトプラス」等の市販ソフトは、曲並び替えできません。
- 変更後の曲番号は、重複して指定できないようになっています。
- ディスク機能を途中で終了したい時は、もう1度機能ボタン(またはストップボタン)を押して消灯させます。

ディスクコピー フロッピー全体をコピーする

※コントロールパネルで操作します。
※メモリディスクではディスクコピーはできません。



停止中に操作します

1 ディスクコピーしたいフロッピーを入れる

※コピー元のフロッピーはプロテクトをオン(プロテクトタブを穴のあいた状態にスライドさせる)にしてください(xv参照)。

2 機能ボタンを押す

▶ディスク *MIDI Setup →
*M-Tune *サイレント

3 「▶ディスク」と表示されていることを確認し、セットボタンを押す

▶フォーマット *キョク ショウキョ
キョク コピ *キョク ナラヒ* カエ →

4 カーソルボタン⇄を4回押して「▶ディスク コピ」と表示させる

←▶ディスク コピ* *キョク ヘンカン
*カウンター *ディスク ヘンカン

5 セットボタンを押す

[ディスク コピ*]
2DD (セット)

↑
フロッピーのタイプ



- フロッピーに入った全曲を、別のフロッピーにまるごとコピーする機能です。
- ディスクコピーは、コピー元のデータ容量が多いとかなり時間がかかる場合があります。ディスク全体をコピーする必要のない場合は、曲単位での「曲コピー」(P80)を行ってください。



- 大切な演奏を記録したフロッピーのバックアップをとるなどに使います。
- コピー先が新しいフロッピーである場合は、フォーマットしてから行います。
- ⑨でディスクコピーを開始した後も再度次の表示が出ます。ディスプレイの指示に従って、コピー先のフロッピーとコピー元のフロッピーを入れ換えてください(入れ換えを促す音がします)。

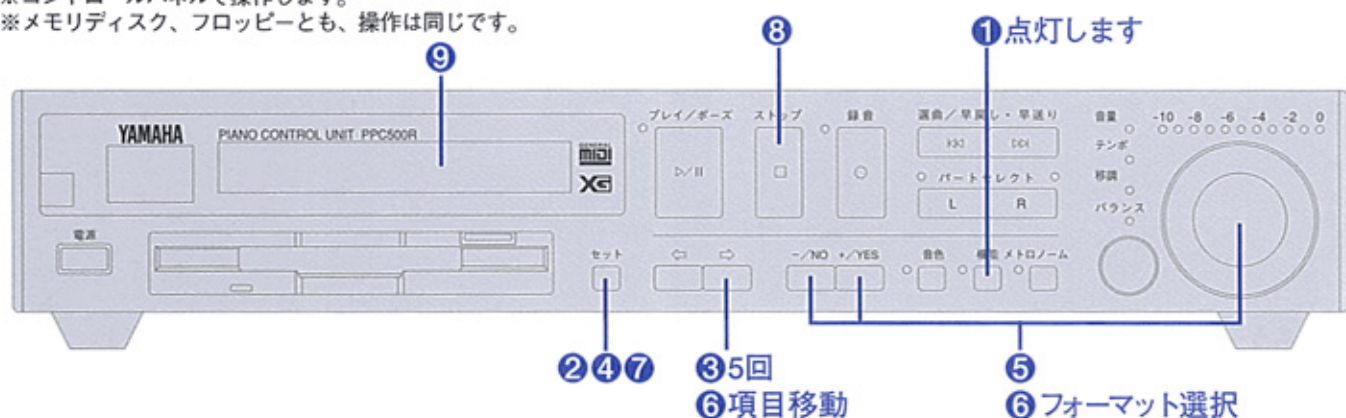
コピ* モトノ ディスクヲ イレテクタ* サイ

曲フォーマット変換

ファイルフォーマットを変換する

※コントロールパネルで操作します。

※メモリスディスク、フロッピーとも、操作は同じです。



停止中に操作します

1 機能ボタンを押す

▶ ディスク *MIDI Setup →
*M-Tune *サイレント

2 「▶ ディスク」と表示されていることを確認してセットボタンを押す

▶ フォーマット *キョク ショウキョ
キョク コビ *キョク ナラビ* カエ →

3 カーソルボタン⇔を5回押して「▶ キョク ヘンカン」と表示させる

← *ディ スク コビ* → ▶ キョク ヘンカン
*カウンター *ディ スク ヘンカン

4 セットボタンを押す

[キョク ヘンカン] (セット)
▶ 01 PIANO ○○○. MID → E-SEQ
曲番号 ファイル名 変換後の
ファイルフォーマット

5 -/NO、+/YESボタン、ダイヤルで変換する曲を選ぶ

[キョク ヘンカン] (セット)
▶ 05 PIANO ○○○. MID → E-SEQ



- 1曲単位で「曲フォーマット」を変換する機能です(フォーマットについてはxvii、P92参照)。
- ディスク内の全曲のフォーマットを変換したい時は、ディスクタイプ変換(P90参照)すると便利です。
- 変換された曲は新曲となり、最後の曲番号になります(変換前の曲はそのまま残ります)。



- フロッピー内の曲の曲フォーマットを変換する場合は、④の表示までに入れておきます。挿入されていない場合は、メモリスディスク内の曲が変換の対象になります。
- ⑦で変換後の曲フォーマットを選択します。次の3種類の間で変換が可能です。

E-SEQ	サイレントアンサンブルピアノやピアノプレーヤで使用するフォーマット
SMF0	スタンダードMIDIファイル・フォーマット0 ほとんどのスタンダードMIDIファイル対応機器で利用できる互換性の高いフォーマットです。
SMF1	スタンダードMIDIファイル・フォーマット1 パソコン等のシーケンスソフトで編集用途に多く用いられるフォーマットです。

6 カーソルボタン⇐⇒でカーソルを移動し、- / NO、+ / YESボタン、ダイヤルで変換後のフォーマットを選ぶ

[キョク ヘンカン] (セット)
> 05 PIANO○○○. MID ▶ E-SEQ

7 セットボタンを押すとフォーマット変換開始

シ ッコウチュウ

※フロッピーの場合は「ディスクヲトリダサナイデ!」が2行目に加わります。

8 次の表示になったら、ストップボタンを押す

シュウリョウシマシタ
ナニカ ホ タンヲ オシテクタ サイ

9 曲名表示に変わったら、曲フォーマット変換終了

PIANO○○○. FIL (00:00) →
S O E S



- 曲フォーマット変換実行中にフロッピーを取り出したり電源を切ったりすると、故障の原因になることがありますので、絶対にしないでください。
- プロテクトがオンになっているフロッピーは曲フォーマット変換できません(xv参照)。
- タイトルをつけていない曲では、仮の名前がセットされていますが、曲フォーマット変換を行うと、末尾の3文字が次のように変更されます。

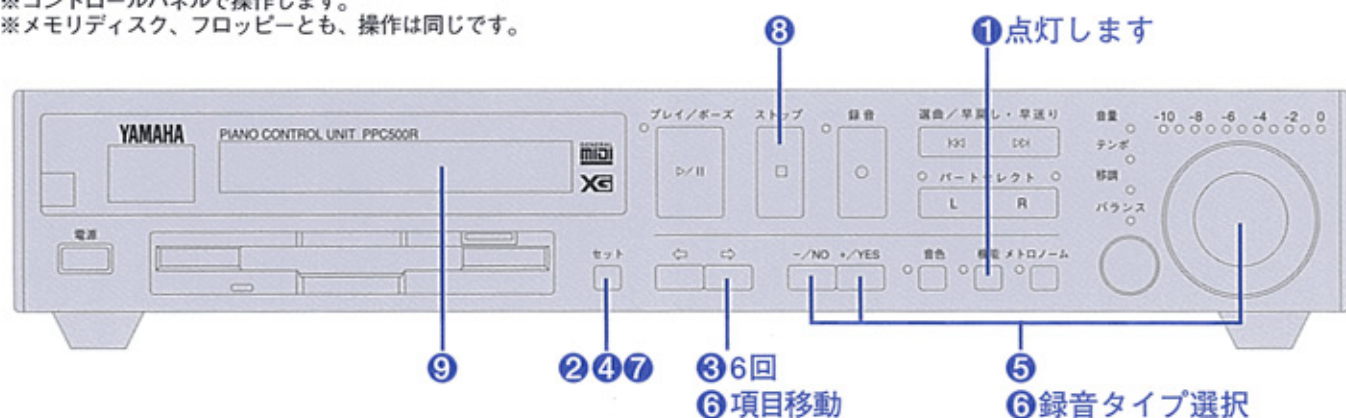
変換前	変換後(ファイル名)
E-SEQ (○○○.FIL)	→ SMF0 (○○○.MID)、SMF1 (○○○.MID)
SMF0 (○○○.MID)	→ E-SEQ (○○○.FIL)、SMF1 (○○○.MID)
SMF1 (○○○.MID)	→ E-SEQ (○○○.FIL)、SMF0 (○○○.MID)

- また、曲フォーマット変換は新しい曲を作成することになるため、元からあったファイル名との重複を避けるために変換後のファイル名を変更する場合があります(同一のファイル名はディスク内に混在できません。)
- ディスク機能を途中で終了したい時は、もう1度機能ボタン(またはストップボタン)を押して消灯させます。
- 「ピアノソフト」「ピアノソフトプラス」等の市販ソフトのフォーマット変換は行えません。

カウンター変更 録音タイプ(メトロノーム録音/時間録音)を変更する機能

※コントロールパネルで操作します。

※メモリディスク、フロッピーとも、操作は同じです。



停止中に操作します

1 機能ボタンを押す

▶ ディスク *MIDI Setup →
*M-Tune *サイレント

2 「▶ ディスク」と表示されていることを確認してセットボタンを押す

▶ フォーマット *キョク ショウキョ
*キョク コビ *キョク ナラビ カエ →

3 カーソルボタン⇐を6回押して「▶ カウンター」と表示させる

← * ディスク コビ *キョク ヘンカン
▶ カウンター * ディスク ヘンカン

4 セットボタンを押す

[カウンター ヘンコウ] (←, +)
▶ 01 → シ (←, →, セット)

曲番号 変更後の録音タイプ

5 -/NO、+/YESボタン、ダイヤルで変換する曲を選ぶ

[カウンター ヘンコウ] (←, +)
▶ 05 → シ (←, →, セット)



●曲ごとに、録音タイプを変更する機能です。メトロノーム録音した曲を時間録音にしたり、時間録音した曲をメトロノーム録音にすることができます。



- カウンター変更実行中にフロッピーを取り出したり電源を切ったりすると、故障の原因になることがありますので、絶対にしないでください。
- プロテクトがオンになったフロッピーに入っている曲は、カウンター変更できません(xv参照)。
- ディスク機能を途中で終了したい時は、もう1度機能ボタン(またはストップボタン)を押して消灯させます。
- 「ピアノソフト」「ピアノソフトプラス」等の市販ソフトのカウンター変更は行えません。

- 6 カーソルボタン⇐⇒でカーソルを移動し、
－/NO、＋/YESボタン、
ダイヤルで変更後の録音タイプを選ぶ

[カウンター ヘンコウ] (－, ＋)
> 0 5 ▶メトロノーム (←, →, セット)

↑ ↑
曲番号 変更後の録音タイプ

- 7 セットボタンを押すとカウンター変更開始

シ ッコウチュウ

※フロッピーの場合は「ディスクヲトリダサナイデ!」が2行目に加
わります。

- 8 次の表示になったら、ストップボタンを押す

シュウリョウシマシタ
ナニカ ホ タンヲ オシテクタ サイ

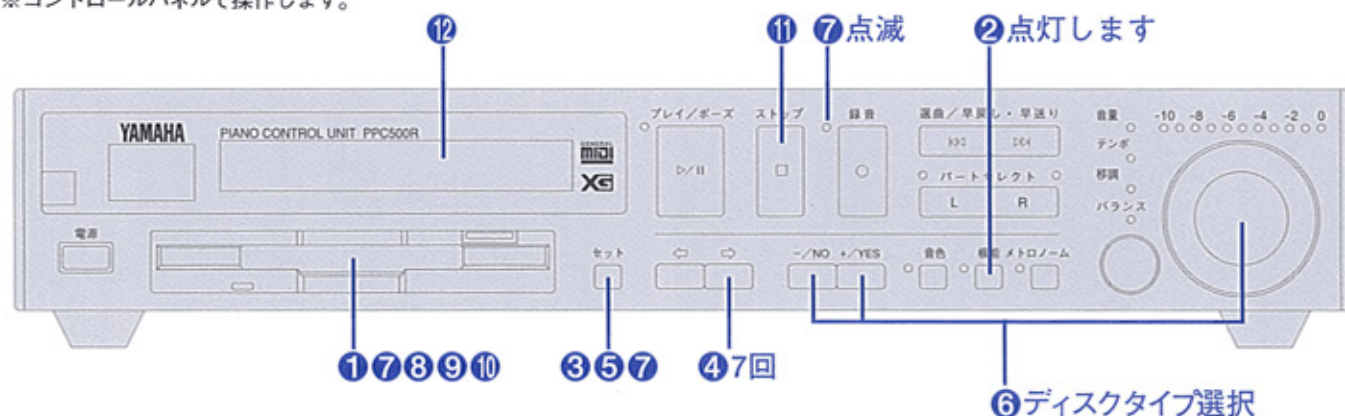
- 9 曲名表示に変わったら、カウンター変更終了

P I A N O ○ ○ ○ . M I D (0 0 0 - 0) →
S O X G

ディスクタイプ変換

フロッピーのタイプを変えて別のフロッピーにコピーする

※コントロールパネルで操作します。



停止中に操作します

1 変換元のフロッピーを入れる

※変換元のフロッピーはプロテクトをオン(プロテクトタブを穴のあいた状態にスライドさせる)にしてください(xv参照)。

2 機能ボタンを押す

▶ディスク *MIDI Setup →
*M-Tune *サイレント

3 「▶ディスク」と表示されていることを確認し、セットボタンを押す

▶フォーマット *キョク ショウキョ
*キョク コビ → *キョク ナラビ カエ →

4 カーソルボタンを7回押して「▶ディスク ヘンカン」と表示させる

←*ディスク コビ → *キョク ヘンカン
*カウンター ▶ディスク ヘンカン

5 セットボタンを押す

[ディスク ヘンカン] (ー, +)
E-SEQ → SMF Type (セット)

現在のタイプ 変更後のタイプ

6 ー/NO、+ /YESボタン、ダイヤルで変換後のタイプを選ぶ

[ディスク ヘンカン] (ー, +)
E-SEQ → E-SEQ (MX) (セット)

7 セットボタンを押す

ヘンカンサキノ ディスクイレテクターサイ



- フロッピーのディスクタイプを変換して、別のフロッピーにコピーする機能です。
- SMFタイプ→E-SEQタイプの変換が行えます(ディスクタイプについては xvii、P92参照)。

変換元のディスクタイプ	変換後のディスクタイプ
E-SEQ	→ SMF Type
	→ E-SEQ (MX)
SMF	→ E-SEQ Type
	→ E-SEQ (MX)

- ピアノプレーヤSX・HG・RF・HQシリーズ用には「E-SEQ」タイプを、MXシリーズ用には「E-SEQ (MX)」タイプを選択します。また、いずれの場合も変換先のフロッピーは必ず2DDタイプを使用します。
- ディスクタイプ変換は、変換元のデータ容量が多いとかなり時間がかかる場合があります。ディスク全体を変換する必要のない場合は、曲単位での「曲フォーマット変換」(P86)を行ってください。

8 変換元のフロッピーを取り出し、変換先のフロッピーを入れる(これ以降、挿入を促す音が鳴ります)

ヘンカンモトノ ティスクラ イレテクタ サイ

9 変換先のフロッピーを一旦取り出し、もう一度変換元のフロッピーを入れる

ヘンカンサキノ ティスクラ イレテクタ サイ

10 変換先のフロッピーをもう一度入れると変換開始

70

シッコウチュウ ■■■■■■■■■■
ディスクトリダサナイデ!

※曲番号表示部とディスプレイに変換残量が表示されます。図では、残量が70%。「00」(ディスプレイは全て■)で変換終了。

11 次の表示になったら、ストップボタンを押す

シュウリョウシマシタ
ナニカ ホタンヲ オシテクタ サイ

12 曲名表示に変わったら、ディスクタイプ変換終了

PIANO○○○.FIL (00:00)→
ES XG



- ピアノプレーヤMXシリーズとのフロッピーのやりとりについて
本製品で作成したフロッピーを使って、録音テンポ変更した曲、および「=117以外のテンポでメトロノーム録音した曲をMXシリーズで正しく再生するためには、⑥で変換先に「E-SEQ(MX)」タイプを指定します。
- 「E-SEQ(MX)」への変換は、変換先フロッピーとして必ず2DDタイプを使います。また、変換元のデータが多いと、フロッピーが2枚必要になることがあります。次のような表示が出たらフロッピーを入れ換えてください。

モウイチマイ ティスクカ ヒツヨウテ ス
ヘンカン サキノ ティスクラ イレテクタ サイ

- SMFタイプをE-SEQ(MX)タイプに変換すると、ピアノパートはすべてTr.1およびTr.2になります。
- コピー先が新しいフロッピーである場合は、フォーマットしてから行います。
- ⑩でディスクタイプ変換を開始した後も再度次の表示が出ます。ディスプレイの指示に従って、変換先のフロッピーと変換元のフロッピーを入れ換えてください(入れ換えを促す音がします)。

ヘンカンモトノ ティスクラ イレテクタ サイ



- ⑪で変換元のフロッピーのプロテクトがオンになっていないと次の表示が出ます。一旦フロッピーを取り出し、プロテクトをオンにしてから(xv参照)、入れ直して下さい。

ヘンカンモトノ ティスクハ
ショウキョホ ウシヲ シテクタ サイ

- 変換先フロッピーはプロテクトオフで使用します。プロテクトがオンでは使用できません(xv参照)。
- ⑩で変換をスタートすると途中でキャンセルすることはできません。また、ディスクタイプ変換実行中にフロッピーを取り出したり電源を切ったりすると、故障の原因になることがありますので、絶対にしないでください。
- 変換先のフロッピーにあったデータは全て失われます。
- ディスク機能を途中で終了したい時は、もう1度機能ボタン(またはストップボタン)を押して消灯させます。
- 「ピアノソフト」「ピアノソフトプラス」等の市販ソフトのディスクタイプ変換は行えません。

フォーマットについて

- 新しいフロッピーを録音／再生に使えるようにする作業をフォーマットと言いますが、ここでは、曲やディスクの「形式」という意味でのフォーマットを解説します。本機単独でお使いの方はさほど意識される必要はありませんが、サイレントアンサンブルピアノの従来機種やピアノプレーヤと曲やフロッピーをやりとりされる方、パソコンの音楽ソフトと共にお使いになる方は、ご一読ください。
- 「曲フォーマット」は、曲をメモリディスクやフロッピーに記録する形式のこと。本製品では、現在もっとも広く使われている「スタンダードMIDIファイル(SMF)のフォーマット0」という形式を採用しています。パソコン用の音楽ソフトで作成しこのフォーマットで保存した曲に、本機でピアノパートを追加したり、本製品で作成した曲をパソコンでエディットするといったことがスムーズに行えます(曲名表示で「S0」と表示)。
- フロッピーのフォーマット時にディスクタイプを指定できますが、初期値の「SMF type Disk」にしておくと、新たに曲を録音する時に、自動的にスタンダードMIDIファイルのフォーマット0形式になります(メモリディスクは工場出荷時にSMFタイプにフォーマットされています)。
- もう1つの「E-SEQ type Disk」は、従来機種との互換性を重視するディスクフォーマットです。従来のサイレントアンサンブルピアノやピアノプレーヤの曲は、「E-SEQ」という形式をベースにしています(HQシリーズはSMF曲の再生は可能)。E-SEQタイプにフォーマットされたディスクは、E-SEQフォーマット曲で録音されます(曲名表示で「ES」と表示)。なお、従来機種では2HDフロッピーは使えません。
- SMF1は「スタンダードMIDIファイル(SMF)のフォーマット1」という形式で、これもパソコン用の音楽ソフトでしばしば使われる形式です。本製品は、SMF1形式の曲の再生が可能です。
※なお、E-SEQタイプのディスクの中にパソコンでE-SEQ以外の形式のファイルをコピーしても、本機のディスプレイで確認したり、再生することはできません。

[*参照ページ]

- ◆フォーマット……xvii、P40
- ◆曲コピー……P80
- ◆ディスクコピー……P84

MIDI

MIDIセットアップ機能のご紹介

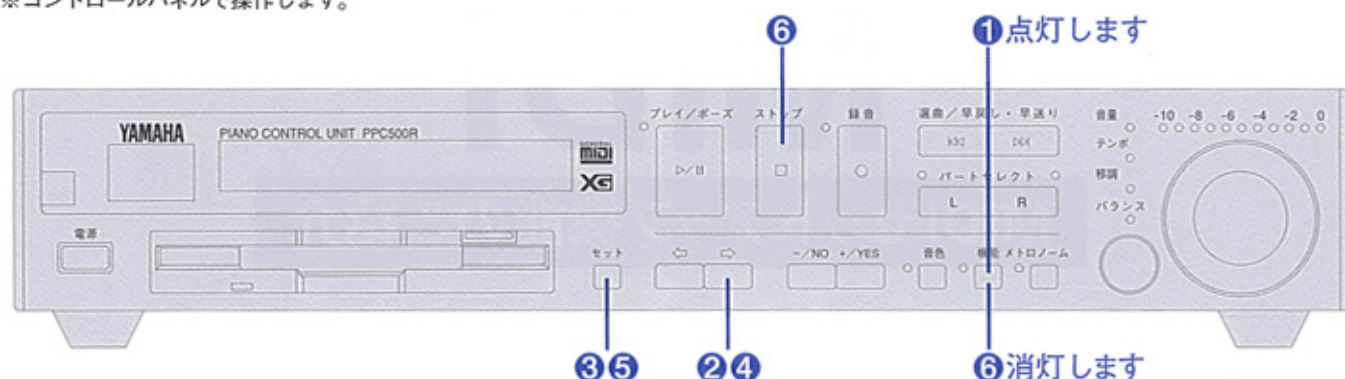
サイレントアンサンブルピアノは、楽器をつなぐデジタル規格＝MIDI（ミディ）に対応。他のMIDI対応楽器と接続して、手軽に連携プレイが楽しめます。またパソコンとの接続も、TO HOST端子により手軽。MIDI対応のパソコン音楽ソフトなどとシステムアップすれば、ピアノの世界をさらに広げることができます。本章では、MIDIシステムを組む際にサイレントアンサンブルピアノ側で行う準備についてご紹介しています。

*MIDI機能は、コントロールパネルで操作します。

MIDIセットアップメニューでの操作方法——MIDIセットアップメニュー	P94
パラメーター一覧（アルファベット順）	
*Delay In———ディレイのオン／オフ	P95
*Import File———他機種で作成されたディスクのピアノパートの再生チャンネル指定	P95
*KBD Out———鍵盤演奏のMIDI出力に関する設定	P96
*Local———鍵盤と音源部の切り離し	P98
*MIDI Out———MIDI出力データの選択	P96
*PianoPartESBL Out———ピアノパートのデータも内蔵音源に送信する	P95
*Piano Rcv Ch———ピアノパートの受信チャンネルの指定	P95
*Remote In———システムリアルタイム情報の受信オン／オフ	P97
*Remote Out———システムリアルタイム情報の送信オン／オフ	P97
*TO HOST———TO HOST端子からの出力	P96
MIDIのセットアップ内容を初期値に戻す——リセット機能	P104
資料編	
*TO HOST端子の接続について	P110
*MIDIインプリメンテーションチャート	P111

MIDIセットアップメニュー MIDI機能の呼び出し方と設定の方法

※コントロールパネルで操作します。



停止中に操作します

1 機能ボタンを押す

▶ ティスク *MIDI Setup →
*M-Tune *サイレント

2 カーソルボタン⇄を1回押し、「▶MIDI Set up」と表示させる

*ティスク ▶MIDI Setup →
*M-Tune *サイレント

3 セットボタンを押し、メニュー選択画面を呼び出す

▶ Piano Part *MIDI Out
*Remote *Local

4 カーソルボタンで4つのメニューから機能を選びセットボタンを押す

▶ Piano Rcv Ch=01 →
> Delay In (500ms)=ON

5 カーソルボタンで項目を選び(▶が移動)ー/NO、+ /YESボタン、ダイヤルで機能の設定を行いセットボタンで確定する

※次画面があればカーソルボタン⇄で移動し、選択→設定を行う。
カーソルボタン⇄で前画面に戻る。

▶ Piano Part *MIDI Out
*Remote *Local

6 MIDIセットアップ機能を終わる時は、機能ボタンまたはストップボタンを押す



●本製品のMIDI端子やTO HOST端子と他のMIDI端子付き楽器、パソコンを接続してシステムを組む際に必要となる設定を、この機能で行います。

●MIDIセットアップ機能でセットした内容は、一部を除き、電源を切っても記憶されます。



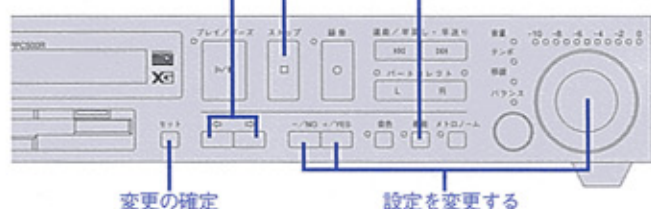
●TO HOST端子を使った接続方法はP110をご覧ください。

●TO HOST端子を使ったMIDIシステムの活用はP106「TO HOST端子の活用とパソコン音楽ソフトとの連携」をご覧ください。

●MIDIセットアップモードでの基本操作(5)

表示の▶を移動し設定項目を選択

MIDIセットアップ機能終了



変更の確定

設定を変更する



●接続する他のMIDI楽器・機器、パソコン、パソコンソフト等の取扱説明書もよくお読みください。

●設定途中でも、機能ボタンまたはストップボタンを押すとMIDIセットアップ機能を終了できます。

●ー/NO、+ /YESボタンを同時に押すと、設定を初期値に戻すことができます。

Piano Part ピアノパートに関する設定

※操作方法はP94をごらんください。



P94④のメニュー画面で「▶ Piano Part」と表示されていることを確認し、セットボタンを押す

《受信チャンネル/ディレイ・イン》

▶ Piano Rcv Ch=01 →
> Delay In (500ms) = ON

カーソルボタン⇐を2回押すと、次の設定画面になります。

《インポートファイル/ピアノパートアンサンブル出力》

← Import File L▶01 R=##
PianoPart ESBL Out=OFF

●Piano Rcv Ch《ピアノ受信チャンネル》

MIDIからの入力データに対して、ピアノを発音させるMIDI受信チャンネルを指定する機能。

◆初期値：1

##	受信しない
1~16	各チャンネルのデータでピアノが発音
1+2	チャンネル1と2のデータでピアノが発音
Prg	ピアノ系音色が設定されているチャンネルの内、最も小さいチャンネル番号のデータでピアノが発音
HP	チャンネル1と2の音符データでピアノが発音 チャンネル3のデータでペダルが動く
Prg (All)	ピアノ系音色が設定されている全チャンネルのデータでピアノが発音

●Delay In (500ms) 《ディレイ・イン》

受信データに対してピアノの発音タイミングを調整する機能。

◆初期値：ON

ON	ピアノを正確に発音させます。但し、受信タイミングより0.5秒の遅れが出ます。
OFF	受信タイミングに対して可能な限り速く発音させます。但し、弱音量では遅れがちになります。

●Import File 《インポートファイル》

他機種で記録されたフロッピーを本機のフロッピーディスクドライブで再生する時、ピアノを発音させるチャンネルを指定する機能。

◆初期値：L=1、R=##

##	受信しない
1~16	各チャンネルのデータでピアノが発音
Prg	ピアノ系音色が設定されているチャンネルの内、最も小さいチャンネル番号のデータでピアノが発音
Prg (All)	ピアノ系音色が設定されている全チャンネルのデータでピアノが発音

●PianoPart ESBL Out《ピアノパートアンサンブル出力》

再生時、ピアノパートを内蔵音源で発音させる/させないを設定する機能。

◆初期値：OFF

ON	ピアノパートのデータもアンサンブルパートの一部とみなし、内蔵音源に送信する
OFF	ピアノパートのデータは内蔵音源に送信しない



●サイレントアンサンブルピアノの自動演奏機能は、ピアノパートをピアノで発音させる(サイレント時はピアノ電子音源を使用)のが基本です。「Piano Part」は、他のMIDI楽器やパソコンと接続した際、ピアノを発音させるデータをどう扱うかを設定します。



- 「Piano Rcv Ch」は、データの内容に応じて変更してください。
- 「Import File」は主にサイレントアンサンブルピアノやピアノプレーヤー以外で作られた曲(スタンダードMIDIファイルなど)のフロッピーを本機で再生する時、データの内容に応じて変更してください。
- 「Piano Rcv Ch」および「Import File」で「Prg」(プログラムチェンジ)を設定すると、ピアノ系音色(音色番号1~8番)が使われているチャンネルの内、最も小さいチャンネル番号のデータをピアノパートとして自動設定します。また、カーソルがLパートにある時「Prg (All)」に設定できます。この場合、ピアノ系音色が設定されている全チャンネルがピアノパートとして設定されます。
- 「PianoPart ESBL Out」をONにすると、全パートを内蔵音源で再生することになります(ピアノと内蔵音源が同時に発音します)。なお、アンサンブルパートのMIDI出力のオン/オフは「MIDI Out」(P96)で行います。

MIDI Out MIDI OUT端子、TO HOST端子からの出力内容を設定

※操作方法はP94をごらんください。



P94④のメニュー画面でカーソルを「MIDI Out」に移し、セットボタンを押す

《ソースの選択》

- ・ホストセレクトスイッチ=MIDIの場合

▶MIDI Out=KBD Out →

- ・ホストセレクトスイッチ=PC1、PC2、MACの場合

▶MIDI Out=ESBL Out
TO HOST=KBD Out →

MIDI Out=KBD Outの場合、カーソルボタンを押して次の設定画面に入ります。

《送信チャンネル/プログラムチェンジ/音量》

- ・スプリットポイントを設定していない場合

←Out Ch▶01
Prg=### Vol=### →

- ・スプリットポイントを設定している場合

←Out Ch▶01, 02 (L, R) →
Prg=###, ### Vol=###, ###

↓ 次の設定画面

《スプリットポイント、移調》

←▶Split [C4]
Trans L= 00 R= 00

■ホストセレクトスイッチ



●MIDI Out

MIDI OUT端子からどのデータを出力するか指定する

- ◆初期値：KBD Out

KBD Out	鍵盤演奏のデータを出力
ESBL Out	アンサンブルパートを出力
Thru Port2	TO HOST端子からの入力の内、「ポート2」と指定されたデータのみを出力

●TO HOST

- ◆TO HOST端子からの出力はKBD Outに固定です。

●KBD Out

- ◆初期値：Out Ch=1、Prg=###、Vol=###、Split=OFF、Trans=0/0

Out Ch	鍵盤演奏の送信チャンネル	OFF、1~16、HP
Split	スプリットポイントの設定	OFF、A-1~C7
Trans	移調して送信	-60~+60(1=半音)
Prg	音色番号データの送信	###、1~128
Vol	音量データの送信	###、0~127



- MIDI Outは、MIDIシステムの構成に合わせて設定が必要です。TO HOST端子を使ったMIDIシステムの活用法は、P106「TO HOST端子の活用とパソコン音楽ソフトとの連携」をご覧ください。



- 「MIDI Out=KBD Out」は、本機をマスターキーボード、入力用キーボードとして使う際に選択します。この場合、カーソルボタンを押して次画面を呼び出し、引き続き送信チャンネルなどを設定します。
- 「MIDI Out=ESBL Out」を選ぶと、アンサンブルパート(本機の再生またはMIDI IN/TO HOST端子からの入力)を内蔵音源およびMIDI OUT端子にも出力します。PianoPart ESBL Out (P95) がONであれば、ピアノパートも合わせて出力します。
- 「MIDI Out=Thru Port2」を選んだ時、TO HOST端子から入力されたデータにPort2用のものが含まれていると、そのデータのみをそのまま出力します(Delay InがONであればディレイを行います)。
- 「MIDI Out=KBD Out」の次画面で「Out Ch=HP」に設定すると、鍵盤演奏情報とペダルのON/OFF情報をチャンネル1で送信し、ハーフペダル情報をチャンネル3を使って送信します。
- 「Split」で音名を指定すると(鍵盤、ダイヤル、-/NO、+/YESボタン)、スプリットポイントで音域を2つに分け、演奏を2つのチャンネルに分けて送信します(スプリットポイントはLパートに含まれます)。2種類の音色を同時に使って演奏したい時などに使います(鍵盤と音名についてはP55参照)。スプリットポイントを指定したら、Out Chは別々に設定します。LRごとの移調(TRANS)も設定できます(移調については、再生機能のP16「移調調節」参照)。
- 「Prg」「Vol」は、接続先のMIDI音源の音色・音量を切り換えるためのものです。鍵盤を弾いて音色・音量を確認できます。スプリット時は、LR個々に切り換えられます。

Remote スタート、ストップなどの送受信のオン/オフ

※操作方法はP94をご覧ください。



P94③のメニュー画面でカーソルを「Remote」に移し、セットボタンを押す

```
▶ Remote Out=OFF  
> Remote In=OFF
```

Remote Outをオンにするには+/YESボタンまたはダイヤルで「Remote Out=ON」と表示させる

```
▶ Remote Out=ON  
> Remote In=OFF
```

Remote Inをオンにするにはカーソルボタン⇐で項目を移動し、+/YESボタンまたはダイヤルで「Remote In=ON」と表示させる

```
> Remote Out=OFF  
▶ Remote In=ON
```

●Remote Out

スタート、ストップなどのデータの送信オン/オフ

◆初期値：OFF

ON	スタート(演奏開始)、ストップ、コンティニュースタート(一時停止からの演奏再開)、ソングポジション(曲中の位置)、ソングセレクト(選曲)、タイミングクロックを送信する
OFF	上記のデータを送信しない

●Remote In

スタート、ストップなどのデータの受信オン/オフ

◆初期値：OFF

ON	スタート、ストップ、コンティニュースタート、ソングポジション、ソングセレクトを受信する
OFF	上記のデータを受信しない



●MIDIのシステムリアルタイムメッセージの送受信をオン/オフします(MIDIタイミングクロックの受信は行いません)。



●コントロールパネルの操作で外部のシーケンサーなどをコントロールする場合は「Remote Out」をONにします。

●外部のシーケンサーなどの操作で本機をコントロールする場合は「Remote In」をONにします。

●TO HOST端子を使ったMIDIシステムについては、P106「TO HOST端子の活用とパソコン音楽ソフトとの連携」をご覧ください。

Local 鍵盤と音源部を接続する／切り離す

※操作方法はP94をごらんください。

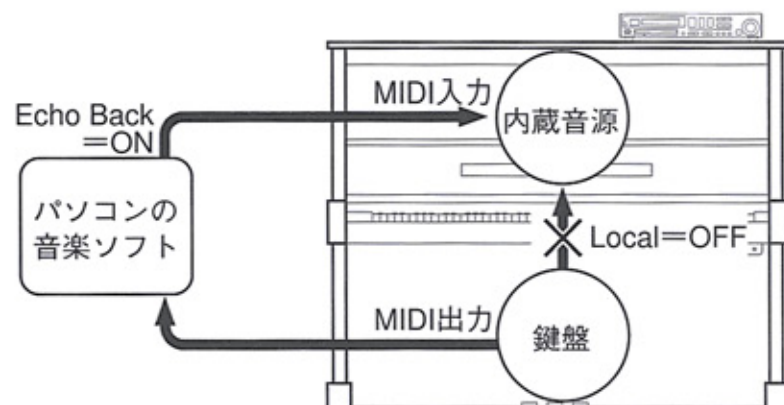


P94③のメニュー画面でカーソルを「Local」に移し、セットボタンを押す

▶ Local = ON
Not Memorized!

－/NO、＋/YESボタン、ダイヤルでLocal=OFF/ONを設定する

●Local=OFFの状態



Local=OFFでは鍵盤と内蔵音源が独立したMIDI機器ようになります。図の接続では、パソコンの音楽ソフト上のEcho Backなどの設定により、鍵盤を弾いて内蔵音源を発音させることも音楽ソフトからの内蔵音源のコントロールも可能です。



●本機の初期設定は「鍵盤を弾いて内蔵の音源をコントロールし音を出す」という状態になっており、この状態はLocal Control Onと呼ばれます。Local Control Offにすると、「鍵盤」と「音源」が切り離され、鍵盤を弾いても内蔵している音源からは音が出なくなります。一方演奏情報はLocal Control OffでもMIDI出力されますので、「直接内蔵の音源は鳴らさず、MIDIで他の音源をコントロールしたい」時などは「Local=OFF」に設定します。



●TO HOST端子を使ったMIDIシステムの活用法はP106「TO HOST端子の活用とパソコン音楽ソフトとの連携」をご覧ください。



●次回電源投入時には「Local=ON」になります。